

# 公 営 企 業

## 1 水 道 事 業

水道事業においては、公共の福祉の増進を図るとともに常に企業としての経済性を発揮することを基本原則として、安全でおいしい水の安定供給により、市民生活の向上と地域社会の発展に寄与してきたところですが、景気低迷による事業所等での使用量の減少や節水意識の浸透などにより料金収入は平成9年度以降減少傾向が続いております。

一方で、より良質な水志向や水質基準強化などの動きへの対応のほか、浄水施設の更新時期を迎えるなど維持管理面での経費が増嵩しており、厳しい経営環境にあります。また、合併に伴う旧城島町、旧三瀧町との水道事業の統合による一体的運用に向けた水道施設の再整備や料金体系の統一、さらには北野地区の三井水道企業団からの分離問題の協議など、合併後に持ち越された諸課題にも的確に対応していかなばならない状況です。

こうしたなか、企業局としては効率的経営に努めるなかで平成元年度の料金を据え置いたままに継続してきた黒字経営を平成17年度も維持してまいります。

平成17年度は、新市建設計画に基づく旧城島町、旧三瀧町の配水場を統合する西部配水場整備事業に着手し、統合前からの国庫補助事業を引き継いだ三瀧地区配水管整備事業などの合併関連事業を実施するほか、施設管理面では効率的管網維持管理のためのマッピングシステムの活用を図ります。

また、水質管理面から老朽給水管(鉛管)更新事業を推進するとともに、事前公表が義務付けられた水質管理計画に基づき、水質検査の充実を図ります。

さらに、未普及地域解消や新市街地の形成に対応する建設改良事業のほか、効率的水処理のための酸処理施設の整備や計画的配水管改良のための第6次整備事業を引き続き推進するなど、長期的展望に立った水道施設の整備拡充に計画的に取り組んでまいります。

事業運営においては、安全性を検証しつつ浄水場の運転管理業務委託を実施するなど、コスト意識に根差した企業経営を最大の目標に事務事業の見直しによる省力化、効率化を推進するとともに、ホームページの活用による情報提供に努め、市民サービスの向上に務めてまいります。

予 算 規 模	7,849,000 千円
給 水 戸 数	113,137 戸
給 水 量	28,841,000 立方メートル

### 主 要 事 業

#### 1. 建設改良事業

(1) 配水管布設工事	12,580 m	620,120 千円
(2) 配水管改良工事	5,344 m	188,140 千円
(3) 施設改良工事	一 式	383,850 千円

うち浄水場監視制御システム更新事業 163,350 千円

(平成15年度～17年度 継続費 事業費総額 763,350 千円)

#### 2. 第6次整備事業(平成16年度～18年度 継続費 事業費総額 1,890,000 千円)

(1) 配水管改良工事	13,040 m	577,372 千円
-------------	----------	------------

#### 3. 西部配水場整備事業(平成17年度～20年度 継続費 事業費総額 2,039,820 千円)

(1) 配水場用地取得等	一 式	115,600 千円
--------------	-----	------------

## 2 ガス事業

ガス事業においては、市民生活を営む上で不可欠な都市エネルギーの安定供給により、市民生活の向上と地域社会の発展に寄与してきたところですが、規制緩和が推進されるなか、電力などの他エネルギーとはもとより、同じガス事業者間でも競争が激化するなど厳しい経営環境にあります。また、34億5千万円を投じた天然ガス切替費用の繰延勘定償却の影響により、平成19年度までは毎年3～4億円程度の欠損が続くことが予想されるなど財政的にも厳しい状況にあります。

このような状況の中、天然ガス切替後、天然ガスの優位性を前面に押し出した営業活動の展開により、大口需要家や医療用などの伸びで販売量、料金収入ともに増加してきてはおりますが、今後さらなる体質強化とともに需要開発に努め、天然ガスの普及促進に努めていく予定です。

平成17年度は、需要開発により天然ガスを活用した業務用のコージェネレーションシステム導入による大口需要の獲得が見込まれ、ガス販売量は倍増となる見通しであり、さらなる需要開発に積極的に取り組みます。また、都市環境の向上にも寄与する天然ガス自動車の普及促進に努め、エコ・ステーションの早期黒字化を実現できるよう営業活動を展開してまいります。

さらに、効率的管網維持管理のためのマッピングシステムの活用を図るとともに、区画整理などの都市基盤整備に合わせた導管布設のほか、保安面強化のための導管整備など管網の計画的整備改良を推進し、長期安定供給体制の確立を図ってまいります。

なお、市長部局でガス事業検討委員会が設置され、90年の歴史を持つ久留米市ガス事業の将来を展望した望ましい経営形態のあり方について論議されますが、企業局としては委員会答申に能動的に対応できるよう努めてまいります。

予 算 規 模	4,564,000 千円
需 要 家 戸 数	27,600 戸
ガ ス 販 売 量	29,414,000 立方メートル

### 主 要 事 業

#### 1. 建設改良事業

(1) 本支管布設工事	7,600 m	257,895 千円
(2) 本支管改良工事	3,050 m	109,500 千円
(3) 供給管工事	306 本	42,161 千円
(4) 附帯事業設備工事	一式	2,190 千円